【巻頭言】

『福祉社会開発研究』第３号の刊行に寄せて

東洋大学福祉社会開発研究センター長
古川　孝順

早いもので東洋大学福祉社会開発研究センターが設立され、この３月で３年を経過することとなりました。この度『福祉社会開発研究 第３号』発刊のご報告ができますのも、ひとえに当センターの事業及び研究活動などにご協力いただいております関係者各位のご指導、ご鞭撻の賜物と存じております。センター長として心からお礼申し上げます。

本センターは、「自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成」、「中山間地域の振興に関する調査研究―中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して―」という２つのプロジェクトから成り立っています。３年目を迎えた本年は、それぞれのプロジェクトの研究成果について、ある程度具体的な形で報告できるようになってまいりました。

プロジェクト１では、千葉県八千代市や東京都墨田区、東京都民生児童委員連合会と協定を結び、実態調査や共同研究などを行っており、その研究活動の成果を報告しております。この他に、北海道帯広市やブラジル・サンパウロ市といった地域で、福祉社会の形成という課題に対し、どのように取り組まれているかについて報告しております。

プロジェクト２では、引き続き中越地震の被災地である山古志村をフィールドとし、山古志地区の生活全体をマネジメントする視点から捉えなおす試み、農業や農業体験、応急仮設住宅団地の設備、中越地震後の生活の再構築、山古志地区の周辺地域の信仰、高齢者の健康維持に対する取り組み、景観資源などについて報告しております。

本報告書から、大都市から中山間地域を含む多様な地域社会とそこでの福祉社会の形成に関わる諸問題の一端を読み取っていただければ幸いに思います。
今後とも、関係者各位の忌憚のないご批判、ご教示をいただきつつ、研究のさらなる展開を期したいと考えております。